

# 海の見える学校

令和5年8月9日／発行者：松本 直道（長崎市立畝刈小学校校長）

## AZ教育 ～一人一人の子供を大切にする学校～



母の母校稲佐小 長崎市内の航空写真

祖父の働いていた三菱兵器工場（今の三菱重工）

### 登校日中止、残念・・・

台風6号の接近によって、8月9日（水）の登校日及び平和集会が中止となってしまいました。今年度は、平和公園で行われる平和祈念式典への本校代表児童の参加も予定されており、残念でなりません。平和集会で発表を準備していた人権平和委員会や5年生の子供たちも悔しい思いをしているのではないかと思います。準備していた発表内容については、2学期に「心の時間」などを使って紹介したいと考えています。

登校日がなくなり台風接近の中ですが、8月9日はぜひご家庭で11時2分の「黙禱」を行ったり、原子爆弾や戦争、平和などについて語り合ったりする1日にしていただきたくお願いいたします。

大型の台風接近のため、各ご家庭では台風への備えもあるかと存じます。くれぐれも不要不急の外出を控え、台風による被害を受けることのないよう、命を守る行動を優先されてください。

万一、台風によるご自宅等の被害や子供の怪我等がありましたら、電話や緊急連絡メール等でお知らせください。

夏休みただ1日の登校日がなくなりました。担任の先生方はきっと、「残りの夏休みを楽しく、健康や安全に十分気を付けて過ごしてください。」と伝えたかったと思います。

この夏は「熱中症」で救急搬送される子どもが急増しているそうです。コロナなどの感染症もまだまだたくさん報告されています。

コロナ禍の中で、子供たちの基礎体力が落ちているのでしょ。そんな中での久しぶりの制限なしの夏休みです。子供たちをはじめ、ご家族の健康と安全を心より祈念しています。

後半もよい夏休みをお過ごしください。

### 8月9日～長崎市民が平和について考える日～

8月9日に話す予定だった話の内容を紹介します。ご家族での会話の参考になればと思います。

皆さんも知っているとおり、78年前の今日、1945年11時2分、長崎市に原子爆弾が落とされました。戦争で爆弾が落とされたといえば、普通はミサイルとかがたくさん飛んでくるイメージだけど、長崎の爆弾はたった一発でとてつもない破壊力を持った爆弾でした。

そのすさまじい威力で、一瞬にして長崎市で7万人以上、広島市で20万人以上の方が亡くなったということでもそのすごさがわかります。三重地区全体に約2万人の方がいるのですが、それ以上の方が一瞬で亡くなった訳です。

実は私の両親はどちらもその原爆を小学校1年生の夏休みに受けました。たくさんの方が亡くなる中で私の父も母も運良く生き延びることができました。今日は母のことだけ紹介します。

母は小学校の夏休みだから、友達と家の近くで遊んでいたそうです。すると、空襲警報が鳴ります。ウーウーと今でいえば、パトカーとか消防車のサイレンみたいな感じ。アメリカ軍の飛行機がきた！という意味です。そうした飛行機は爆弾を落としたり鉄砲を何発も打ったりするから、みんな隠れます。母は家の中に入ったそうです。

でも、その時は飛行機の姿は見えたけど何も打ってこなかった。もう、大丈夫とまた遊びに行こうとしたその時、激しい爆発音がひびきます。「ドーン」その瞬間、母は気を失ったそうです。

原爆の恐ろしさは主に3つあります。1つ目は爆風です。台風より何倍も強い風が吹きます。その爆風で家の窓ガラスが全部割れました。そして、台所にいた母のお母さん（私の祖母）は、身体中にガラスが突き刺さり、血まみれになりました。さらにその爆風の威力で一階建の家はベシャンコに潰れました。母は気を失ったまま家の下敷きになり、血まみれの祖母が、必死に母を家の下から引きずり出したそうです。

2つ目は熱です。仕事が休みだった母のお父さん（私の祖父）は家の外の玄関の門のところにおりました。すると、門の影になった部分は良かったのですが、体の半分は門の外側に出ていたため、体の半分大火傷になりました。祖父はそのひどい火傷のため、長い間入院し、その後も動くことのできない体になってしまいました。

3つ目は放射線です。家族3人とも原爆を受けた母の家はベシャンコになり、小1の母は家の下敷き

祖母はガラスで血だらけ、祖父は大火傷、それでも家族3人で母を背負い、市内をぬけて山の方へと逃げました。市内はひどい様子だったそうです。ただ、母はずっと目をつぶっていたので声だけが聞こえたと言っていました。「水ば～、水ばくれ～」といった声、それから人が焼けるひどい臭いがしたそうです。

逃げる間、たくさんの放射線を浴びてしまった3人はずっと体調が悪く入院していたそうです。原爆を受けてしばらくして、怪我や放射線の影響で知り合いもたくさん亡くなりましたが、3人はその後もたくましく生き続けることができました。

同じように放射線をあびた私の父は49歳でガンで早く亡くなったのですが、原爆の放射線の影響が少しあったのかもしれない。

母は原爆が落とされる日まで、家族3人平和で不自由なくくらしていました。それが、その日から仕事も家もない地獄のような日々を過ごすことになりました。そんな中、家族3人で必死に生き延びて父と出会ったので、私は今ここにいます。

そして、その原爆の日から78年、日本は一度も外国と戦争をせず、平和な日々が続いています。嬉しくありがたいことです。私も君たちも戦争を知らない。自分が起こした訳でもない戦争で、一瞬にして地獄のような日々にしてしまう戦争や原爆なんて絶対ない方がいいですよ。

君たちがこれからどう生活したら、どういう考え方をしたら戦争のない世の中を作れるのでしょうか。今日は、そのことを先生と家族と仲間と一緒に考える日にしてください。

夏休み前に子供たちには「あぜかり教育」の「か」＝考えることを大切にして夏休みを過ごしてほしいと話しました。よく考えて行動し安全に気をつけてという話をしましたが、まさにその話をした夕方に福岡県で3人の児童が川でおぼれ死亡するという痛ましい事故の報道がありました。

残り半分となった夏休みですが、くれぐれも子供たちには安全についてよく考えて行動するよう声をかけてください。また、「人の命の尊さ、はかなさ」を教えてください。「冒険」や「挑戦」と「向こう見ず」は違います。「自分の命は自分で守る」「平和を大切にする」ことを子供たちに伝えていきましょう。